



とちょう保育園便り

2024年6月号

6月は春と夏の変り目である「梅雨」の時期。色とりどりの紫陽花が綺麗に花を咲かせていたり、雨の日に外に出てくる生き物を見つけたりと、この時期ならではの自然の楽しみもあります。

気候の変化はありますが、健康面、衛生面に気をつけながら今月も元気に過ごせるようにしていきたいと思います。

とちょう保育園 園長

6月の予定

- ・2歳児クラス 保護者会
- ・身体測定 ・歯科健診 ・避難訓練
- ・0歳児健診 ・応急手当訓練（職員）

いす組 保護者会へのご参加ありがとうございました

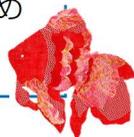
先日はお忙しいところ、保護者会に参加していただきありがとうございました。子どもたちのご家庭での様子をお聞きできたり、園での様子も伝えながら和やかで楽しいひとときを過ごすことができました。お困りことや気になることでは「うちも同じです。」と悩みを共感されたり、解決に近づくことができたらいいなと思います。（会の中で出たアイデアが実現できるよう、準備をしていきたいです。）

今月はうさぎ組さん。どうぞよろしくお願ひいたします。

梅雨期を快適に過ごそう！

夏に向かっていくこれからの時期、暑くて汗をかいたときには体調を見ながらシャワーや濡れタオルで汗を拭いたりし、子どもたちが快適に過ごせるようにしていきたいと思っています。

また、タライなどに少量の水を入れ、ひんやりとした冷たさや感触を楽しめるような夏のあそびも考えています。詳細は後日、お伝えいたします。



安全第一

1歳クラスの保護者会の中で誤嚥についての話をしました。今回のお便りでは、以前園内で職員と話し合った内容を共有いたします。

- ・「窒息事故」は0歳～3歳の小さな子に起こりやすい事故。
（生後5～6か月頃から手に掴んだ物を口に持っていくようになる。）
これは子どもの成長段階で自然な行動だが小さな子どもは喉が狭く、飲み込んだり吐き出す力が弱いため、口に入れた物で喉を詰まらせ、誤嚥や窒息を起こすことがある。
- ・小さな子どもの口の大きさは直径約4cm。これより小さく、子どもの口に入るものは何でも誤嚥や窒息の原因になる可能性がある。
- ・窒息したときの症状は？
喉を押さえる、口に指を入れる、声を出せない、呼吸が苦しそう、顔色が急に青くなる。
- ・対応は？
窒息に気づいたらすぐに救急車を呼ぶ。その間にも詰まったものを吐き出させるための応急処置（背中を叩く“背部叩打法”、1歳以上児は腹部を突き上げる“ハイムリック法”）をすることが非常に重要。

— 政府広報オンラインより —

職員は全員3年毎に普通救命の講習を受け、心肺蘇生法や誤飲の対応、AEDの使い方（保育園にもAEDを設置しています）などを“万が一”に備えて学んでいます。今月は新宿消防署の職員の方にお越しいただき、「応急手当訓練」（職員が受けます）をしていただきます。

また、窒息や誤嚥といった事故になる前の段階の安全対策を日々の中で丁寧に行っていきたいです。そういった情報や子どもの現在の姿を日頃から保護者の皆さんとも語り合ったり、お便りなども用いたりしながら共有するのが大切だと考えています。

今後もご家庭と園とで協力しながら子どもたちが安全に過ごせるようにしていきたいです。よろしくお願ひいたします。